

# なかしゅんぱつ



旧豊原小学校体育館で豊原音楽祭が12月20日(日)開催されました  
音楽を通じて保育園児から大人まで、練習した演奏の成果をステージで披露しました。  
かわいい園児達のハンドベルや小中高生のリコーダー、大人達の管楽器・ピアノ・バンド・太鼓と幅広いジャンルが演奏され、冬の体育館にそれぞれの音色が響き渡りました。



## 2月号

2016 Vol. 457



## TMRセンターを活用し安定した 飼養管理の徹底を図る

美原地区・岩瀬牧場経営者 **岩瀬 恒介**さん(28歳)

今月は美原地区の岩瀬牧場の経営者。岩瀬恒介さんに取材を受けていただきました。

### 岩瀬牧場の始まりと歴史

岩瀬牧場は父・賢介さんが現在地に新規就農したことで始まりました。賢介さんは東京出身、サラリーマン家庭に育ちましたが動物好きが高じて、高校は都立農芸高校へ進学しました。農水省統計事務所への就職が決まっていたのですが、都内の獣医大学へ進学し獣医師免許を取得。卒業後、乳牛の診療業務に従事した後に埼玉県衛生局に転職しました。仕事はおもしろく充実していたものの、行き詰まっていたところ「昔は酪農の夢を持っていたじゃないか」と助言を得て、高校時代の思い描いていた夢に向かうと決断しました。目指した場所は高校時代に読んだ本、周はじめ著のパイロットフーム以前の様子が書かれていた「牧人小屋だより」さいはての森と草原の国よ



毎日TMRセンターから配送される飼料を与えています

恒介さんは昭和62年生まれなので賢介さんが就農時は生まれていまして上に2人の兄がいますが、2人とも就職したため自然と自分が跡継ぎとなるだろうなと感じていたようです。



エサ寄せ作業を行いながら牛の健康状態を確認

恒介さんは昭和62年生まれなので賢介さんが就農時は生まれていまして上に2人の兄がいますが、2人とも就職したため自然と自分が跡継ぎとなるだろうなと感じていたようです。

り」の舞台だった当時の西別地域、別海町と定めて道開発公社リース牧場就農へ申し込みました。

しかし、血縁のない別海での就農要件は地元連帯保証人、物件の抵当、携行資金の用意(持ち出し資金)、酪農実習3年以上経験など厳しかったそうです。なんとか要件をクリアするのに7年を要し、この間は道嘱

託職員(家畜防疫・食肉検査業務)をこなしながらの酪農実習でした。

別海町農業委員会より斡旋を受けた中春別農協で、実習経験の経験年数が不足していると指摘され、現在地の離農跡地で管理人として採用され、経験を積み平成元年4月に管理していたまま引き継いで42歳の時に就農しました。



猫に囲まれながら、話を聞かせてくれました

を繰り返しましたが現在は、日常生活は支障ない程度まで回復しました。

### 酪農の面白さや大変さ

「生き物相手なのでイレギュラーな事は起こるもの、時間をかけて目を配った分だけ数字として表れるところ」と教えてくれました。

### 休日の過ごし方

趣味は、最近はおまわり行けてないものの冬は近所の同級生と標津金山スキー場や阿寒湖畔スキー場でスノーボードを楽しんでいます。

あまり時間がない最近、海外ドラマ鑑賞をしています。

### これからの目標

将来の目標について恒介さんに尋ねると「現在加入しているTMRセンター、合同会社グリーン

コンプリートサービスを利用しながら乳量増産と乳質向上を図りたい。あとはお嫁さん探しを頑張りたいです」と将来の目標を教えてくださいました。



### <岩瀬恒介プロフィール>

1987年12月18日岩瀬牧場の男4人兄弟の三男として生まれました。

別海高校を卒業後に就農しながら専攻科へ2年間通い現在に至る。

趣味は、スノーボードと海外ドラマ鑑賞。

## 第7期 미래塾 修了式

第7期

미래塾  
修了式



平成28年1月14日、平成27年度第7期 미래塾修了式が開式されました。担任手後継者を対象とし、今回、修了となる第7期は5人の受講生により1年間、全24回にわたって講座を実施し、農協運営事業をはじめ酪農技術や農業機械修理、また視察を通して経営管理について学んできました。

# 酪農の基礎知識と意識を学び、 今後の経営にいかしていきたい

関係機関との繋がりを作ることを目的とし、根室農業改良普及センター、根釧農業試験場、北海道酪農検定検査協会根室事務所、ジェネテイクス北海道道東事業所、北海道ひがし農業共済組合をメインに講師を依頼し、講座や現地研修を行いました。



1年間の受講を終えて晴れやかな修了生の表情



小湊塾長から一人一人修了証が手渡されました

当日は、お世話になった関係機関の方々がご臨席の中、出席した4人の修了生は小湊塾長より修了証書を受け取りました。

修了生は組合長の前に緊張した様子で壇上に上がりましたが、修了証を受け取る際には、組合長から優しい言葉をかけて頂き、笑顔で賞状を受け取る事ができました。

その後の塾長挨拶で小湊塾長から、「講師となっていたいただいた関係機関の皆様には、改めて厚くお礼申し上げます。修了生はみらい塾で得た知識や仲間との絆を大切にして、将来の地域と酪農を支える人物になっていただきたい。そして、日々変化していく酪農経営に柔軟に対応し、それぞれの時

代に即した経営をして欲しい」と挨拶をいただきました。続いて根室農業改良普及センター佐藤所長より「修了おめでとうございます。修了生の皆様には修了後も互いに一層つながりを深めて頂きたい。互いに悩みを打ち明け、その出来る存在になつて欲しい。そして若いうちにはたくさんの挑戦をして様々な経験をしていただきたい。失敗したとしてもそれは無駄ではなく、その経験が自分を大きく成長させるのです」とのお祝いと激励の言葉をいただきました。

修了生を代表して中春別地区の出田有花里さんから、「この1年間、みらい塾を通して農協の業務や酪農の基礎知識、実際に農家さんに視察に行き、酪農に対する意識が一層深まりました。今後はみらい塾で学んだことをこれからの経営に活かして、地域の人々や農業の先輩に学び、手を取り合いながら、頑張っていきたいと思えます」と力強い挨拶がありました。

# 第7期みらい塾 受講生修了レポートを紹介

## みらい塾を受講して



井上 哲孝

約1年間にわたって様々な内容の研修が行われ、現在の酪農経営を振り返りながら考えられた事や、新たな知識を学ぶ良い機会になりました。

農家への視察では、自分今まで祖父や祖母、両親から聞いてきた酪農スタイル

## 長いようで短かった1年間



出田有花里

みらい塾の1年間は長いようで短かったです。たくさんさんのことを学びとても充実した1年間だったと思います。

私がみらい塾に入ろうと思ったのは、家にいて時間に余裕があった事もあり、高校を卒業してから1年間、

と現代の酪農スタイルとは大きく違うということを確認できた場となりました。

昔は近隣の農家のほとんどが自分の家と同じような規模と管理方法だったと聞いてきました。現代は多種多様。それぞれの農家さんがそれぞれ違う牛の管理方法で経営をしており、そこに正解はないと感じました。どのような管理の方法であつても牛が健康で安定した乳量を保ち良好な経営を行うことができるのであれば家族も牛も幸福であると思います。自分は経営者

十勝の方で勉強してから地元に戻ってきました。ここで知り合いはあまりいないのでどこかで知り合い作りをしていました。でも、どうしたらいいのかわからないまま来ていた時、みらい塾のお誘いが来たのでラッキーと思いついて入ることになりました。講義は、すぐくためになることばかりでした。農協は身近にあるのにどんな仕事しているのかも、それぞれろか組織のことすら全然知

としてスタートしたばかりで年数も浅く知識不足、経験不足を痛感してきました。

最近は何度の失敗や苦労が糧になって次の作業の自己決定を後押しできるようになつてきたと感じています。実際に飼育形態や規模の違う農家さんと直接話をする事で、自分が今まで悩んだりおかしと感じたり揺らぐ場面がただ多い中、「うちもこういう分娩房を作りたいたい」「この機械を導入したら作業効率が上がるかな」などとヒントをもらうことができました。

りませんでした。受講していくなかで組織の部署のこと業務のことをわかりやすく説明してもらいとても勉強になりました。講義は大変だと思ったのは、営農計画書の作成と農業簿記でした。どうやって予想立てたらいいのかわからないままよくわかっていません。でも、作り方はわかりました。農業簿記は、教えてもらいながらなんとかできました。手書きってこんなに大変なんだなと思いました。

酪農家の仕事は「百姓」と聞いたことがあります。自分が経営者になつてまさにそう思います。しかし、現在は酪農家を支えてくれる業者や専門職種、委託業は多くあります。日々お世話になつている農協の様々な課が行っている業務内容を知る機会などみらい塾でしかなかったのが再認識することができ、ジェネティクスや乳検なども詳しく話を聞くことができて今後の仕事に生かすことができそうだと感じました。これらの酪農家を支えてくれる業種をよりよく理解

解することにより、これから酪農家としての専門性を発揮することができるのだと感じました。そしてこれからも様々な事の勉強をしていこうと思います。みらい塾には仕事の都合がつかず受講できないことも多くありました。サポートしてくれた農協担当者、講師の方々に感謝するとともに共に受講した受講生の皆さんとも様々な情報交換ができよい学び・出会いの間となりました。皆さん1年間ありがとうございました。いろいろと迷惑ばかりかけてしまひすみませんでした。それと同時に感謝の気持ちです。ほんとお疲れ様でした。みらい塾のおかげでたくさんの人と知り合うことができました。多くのこと学ぶことができ、これから活かしていきたいと思ひます。農協職員の方々、普及所の方々、講師をして下さった関係機関の方々、視察を受け入れて頂いた農家の方々、皆様、本当にありがとうございました。

## みらい塾を終えて



上神 大地

今回第7期みらい塾に入った理由は、みらい塾事務局担当である赤井さんが直接家に来て『みらい塾にはい

りませんか?』と誘ってくれたのがきっかけです。

誘われたときは仕事なども忙しくなってきたときだったので、正直迷いましたが今の自分には農協組織や仕組みについて何も知識がありませんでしたのでこれも何かのいいきっかけなのかな。と思い入講を決意しました。この一年間を振り返ってみるとあつという間に感

じました。月に一回から二回の講習でした。トータルで24回という少ない機会でしたが、いろいろな理由があつてあまり出られない結果になつてしまい、みらい塾担当の赤井さんや農協職員

の皆さんには迷惑をかけてしまったと反省しています。みらい塾の講習では農協の仕組みをはじめ、さまざまな関係機関とのつながり

を目的としてさまざまな外部視察にも行きました。また、乳質についての詳しい勉強会などもあり、知っているようで知らなかったこともあり大変勉強になったなと思います。

今回この一年間みらい塾と一緒に勉強した人たちやさまざまな講習をしてくださった講師のみなさまといろいろな人脈を築くことが

でき、これからの経営の道に一步前進したのではないかなと思います。

この一年間まだまだ分からない事も多く、まだ学ぶことも多くありますがみらい塾での講習などをいかして、これからの仕事で実践に取り組んで頑張っていくと思えます。

## 講義・牧場視察を通して学んだ一年間



中村 理美

みらい塾が始まって、一年間があつという間に過ぎていきましたが、新たな知識も身につけ、塾生5人でしたが仕事の都合上、出席できない人が多く、2人で講義を受ける事がありませんでしたが、女性後継者が少ない中、唯一一緒に入った出田さんと同じ後継者として良い交流ができました。

みらい塾に入ったことで、まず農協の業務や仕事の内容について、講義を通して

改めて知ることができました。

講義では、牛に関する乳房炎の発生から防除、初乳の管理、周産期病、家畜の改良について学び、視察では、雪印メグミルクなかしべつ工場、酪農検定検査協会、ジエネテイクス北海道、大規模農場における乳牛の飼養管理について中春別地区の藤倉さん、つなぎ牛舎における乳牛の飼養管理について豊原の久保さん、育成牛の飼養管理が優れているギガファームの兼松さん、乳質が優れている農家について豊原の花岡さん、繁殖の優れている豊原の木原さん、どの視察も参考になるよう

なものから勉強になるような話を聞かせてもらいました。

実際に視察に行つた後、毎回普及所の方と視察を通して何が良かったか、我が家と比べてどこが優れていたのか、何を目標とし、どう改善するべきか、みんな話し合つた事は、これからの経営をどのように行つていけばいいのか考へる機会になりました。実際に視察をさせて頂いたことは良い参考にもなり、良い刺激にもなりました。一年間の受講の内容では、とても幅広くのことを学ぶことができました。

これから、酪農家だけではなく、農業全体的に厳しい世界になつてしまっています。

農業経営の課題として、健康な牛が健康な草を食べ、安全な牛乳を生産する環境作りをするという事が挙げられます。

自分のやり方で仕事をできるようになり、自分のやり方で結果を出せる喜び、様々な課題にぶつかつてどうしたらいいのか考へ、それを改善し、そして何かの結果が出るといった変化を自分が身をもって経験する時、この仕事へのやりがいやおもしろさというのを感じると思いました。

これからもまだまだ分からないことも多く、学ぶこともたくさんありますが、これからの仕事に励み、日々努力していきながら経営に生かしていきたいです。

この一年間を通して農協の方々をはじめ、講師の方には大変お世話になりました。これからもお世話になることと思えますが、よろしくお願い致します。

一年間本当にありがとうございました。



平成 28 年度  
第 8 期 みらい塾 入講式



第 8 期  
みらい塾  
入講式

平成 28 年 1 月 14 日、平成 28 年度第 8 期みらい塾入講式が行われ、新たに学ぶ 5 人が紹介されました。紹介された入講生は席から立ち上がり、新入講生の視線を一気に浴びた入講生は緊張しているようでしたが、その緊張の中にも「これからみらい塾で頑張っていきたい」という気概が感じられました。

## 酪農、農協事業を学び地域の担い手になるよう努力します

塾長より「入講生の皆様には、講座を通じて知識や経験を深めて、自分の将来の酪農経営はどうであるべきかを考えていただきたい。そして、将来は地域で重要な役割を果たす人物になって欲しい」と挨拶をいただきました。

続いて根釧農業試験場の草刈場長より「入講生の皆様には、みらい塾を通じて将来の財産となるような経験をしたい。たくさんさんの農場に視察に行き、たくさんさんの考えに触れ、将来の酪農経営に活かして欲しい。そして、共に学ぶ仲間や関係機関の皆様とのつながりを大切にして欲しい」との挨拶をいただきました。

その後、入講生を代表して豊原地区の青野大地さんが、「1 年間、みらい塾を通して酪農や農協について学び、立派な地域の担い手となるように努力しますので、

皆様におかれましては、ご指導の程、よろしくお願いいたします」と力強い代表挨拶をいただきました。

その後、8 期生は昼食を挟み、団地センター研修室にてオリエンテーションを行い、館内営農部長から、受講に当たっての心構えや年間の講座内容についての説明を受けました。



少し緊張した面持ちで入講式に臨みました

そして、みらい塾で学びたい事を塾生どうしでそれぞれ話し合いました。



入講生を代表して抱負を語った青野大地さん

代表選出でも入講式でも挨拶を頂いた青野大地さんが第 8 期生代表に決定しました。

みらい塾生は 1 月から 12 月の間、定期的な開かれる講座を通じて、農協運営事業をはじめ、乳質向上、草地の植生、家畜の改良、また視察を通して経営管理や乳牛の飼養管理について学ぶこととなります。

# みらい塾 第8期生プロフィールをご紹介します



豊原地区

★名前 青野 大地  
(あおの だいち)

26歳

青野芳樹組合員後継者

★生年月日

平成元年5月12日

★みらい塾に応募したきっかけ  
酪農に関する知識を深めたいから

★趣味

マラソン・カラオケ・ゲーム・マンガ

★好きな言葉

「明日があるさ」

★将来の夢

50年後もおいしい食べ物  
を食べていられるように  
なる

★皆さんに一言

1年間よろしくお願  
います。



豊原地区

★名前 中西 裕哉  
(なかにし ゆうや)

22歳

中西貴司組合員後継者

★生年月日

平成5年4月7日

★みらい塾に応募したきっかけ  
農協組織について学びた  
いから

★趣味

バレーボール

★好きな言葉

「自由」

★将来の夢

人にも牛にも無理のかか  
らない経営  
★皆さんに一言  
ご指導・ご鞭撻よろしく  
お願いします。



豊原地区

★名前 小林 義敬  
(こばやし よしゆき)

32歳

望月英彦組合員後継者

★生年月日

昭和58年2月13日

★みらい塾に応募したきっかけ  
父の勧め

★趣味

写真・旅行・登山・スノーボード

★好きな言葉

「よしとしたからには逃  
げない」

★将来の夢

映画より楽しい人生を送  
る  
★皆さんに一言  
初心者なのでよろしくお  
願います。



豊原地区

★名前 森 友佑  
(もり ゆうすけ)

23歳

森文子組合員後継者

★生年月日

平成4年4月25日

★みらい塾に応募したきっかけ  
勉強したいと思ったから

★趣味

スポーツ観戦

★好きな言葉

「食べ放題」

★将来の夢

家庭を持つ  
★皆さんに一言  
日々勉強して頑張ってい  
きたいと思えますのでよ  
ろしくお願います。



中春別地区

★名前 島崎 和成  
(しまざき かづなり)

20歳

島崎清組合員後継者

★生年月日

平成7年9月20日

★みらい塾に応募したきっかけ  
専攻科の同級生に誘われ  
たため

★趣味

車・バイク・バギー・ス  
ノーモービル

★好きな言葉

「努力」

★将来の夢

豪邸を建てる  
★皆さんに一言  
未熟者ですがよろしくお  
願います。



# Exciting Innovation ～力強い農業へ!～

「青年の主張」「活動実績発表」

青年部(兼松真武部長)は12月3、4日にかけて開催された第64回全道JA青年部大会(札幌パークホテル)へ3人が出席いたしました。



元農林水産省顧問・原田氏より「TPP」とこれからの酪農畜産について説明をいただきました。

全道大会の大会スローガンは、「Exciting Innovation 力強い農業へ!」と題され、大筋合意となったTPPと日本農業の将来は不透明な部分が多くあるものの、次世代に繋いでいけるように団結し揺るがない基盤を築き上げるための場として位置付け、全道各地から800人以上、当青年部から兼松真武部長、野矢貴志副部長、荒貴志理事の3人が参加いたしました。

大会では、「青年の主張」「活動実績発表」が行われ、各地域の代表が生産者として日々感じている想い、盟



左から野矢副部長、荒理事、兼松部長

友と切磋琢磨してきた活動内容の発表が行われました。また「分科会」では各分野

## TPPと これからの酪農畜産

に分かれて講師を迎え米や畑作の他、酪畜では「TPPとこれからの酪農畜産」元農林水産省顧問の原田英男氏を迎え

てきた。特色ある強い基盤のある農業経営をしていけば大きな影響を受ける心配がない」と語気を強めた講演をいただきました。

全体懇親会では、「アームレスリング大会」「純農ボーイコンテスト」が行われ、全道盟友達と交流を深めました。

## 漢字の本来の意味

2日目にはお笑いコンビTIMのゴルゴ松本氏による「命の授業」と題して、メディアで話題の自身の持ちネタといくべく「漢字の成り立ち・本来の意味」で日本各地の少年院や学校で話されている講演があり、「自分の目でよく見たことが大切!日本の食を守る若者達は元気であれ!いつか自分も農業をやってみたい」と思っているのその時は、皆さん優しく教えてくださいな」と笑いを交えながら終始、熱のこもったお話しに会場全体が聞き入っていました。全体を通して地域ならではの悩みや特色に触れ参加部員にとっては良い刺激となりました。

# 一年の始まり、笑いの 絶えない時間となりました!

別海町ボルシエにて1月18日(月)に女性部新年交流会が開催されました。

農協より佐藤専務をはじめ、酪対より西川会長、J A 地区女性協より畠山会長を招いての開催となりました。



開会挨拶をする齋藤部長

部員21人が新年の挨拶を交わし、豪華なごちそうを前に佐藤専務より挨拶を賜り、西川会長の乾杯で新年会がスタート。

食事がひと段落したところで恒例のゲームが始まり、値段当てゲームではなんと1円誤差に収める方もおり、会場がわきたちました。同じテーブルを囲んでいる方たちでのババ抜き対決では、



変則ルールの子バ抜きで大盛り上がりとなりました

いつもなら最後にババを持つている人が負けの所を、ババを最後まで持つていられた人が勝ちという変則ルールでの対決で「右手に持つてい



ビンゴの景品ゲットでピース!

る方がババだよ!」と仲間同士での心理戦が繰り広げられていました。

最後にビンゴゲームを行いそれぞれが豪華景品を獲得し、畠山会長の一本締めで終了となりました。最後まで

笑いの絶えないにぎやかな新年会となりました。参加された皆さんお疲れ様でした。



## 技術と経験を重ね、仲間とより多くの愛牛を ショウの舞台へ

第28回中春別乳牛改良同志会定期総会

第28回中春別乳牛改良同志会定期総会が白樺食堂において1月22日(金)に開催されました。

総会の開催に先立ち、平成27年度新規EX獲得牛と特別賞の授賞式が行われ、新規EXを獲得した目黒雅明さん、橋本幸二さん所有の牛が表彰されました。また、熊本県と沖縄県でEXを獲得したそれぞれの牛の繁殖者として山田博和さんが表彰されました。



女性部フラワーアレンジメント講習会

# それぞれの個性が出た 作品ができあがりました

渡辺正樹さん(フラワーームえみ)を講師にお呼びした  
フラワーアレンジメント講習会が、12月10日(休)に団地セン  
ターにて開催され20人の方が参加しました。



リースの形をしたスポン  
ジに土台となる木の枝を刺  
していき、その上からバラ・  
リング・カーネーションなど  
を飾っています。土台となる

枝はリースの形に添わせな  
がら下のスポンジが隠れる  
ように刺していくのがポイ  
ントで、その上に飾る花は  
同色のものは対角線上に置

くか、三角  
形になるよ  
うに配置す  
ると綺麗に  
見えますと  
渡辺さんに  
アドバイス  
を頂きました。  
もらった花を全て  
使い豪華な  
リースを作  
る人や控え  
めで美しい  
リースを作  
る人など、  
それぞれの  
個性がでた



皆さんお手製の美しいリースを手に記念撮影

リースができあがりました。  
全員の作品ができあがった  
後はお正月用にアレンジ  
できるよう、手順を教えて  
もらいました。土台はその  
ままに梅や水引きなどを飾  
りあつという間にお正月飾  
りができあがりしました。渡  
辺さんから様々なアドバイ  
スをもらい講習会は終了と  
なりました。お正月には綺  
麗なリースが家を飾ってい  
たことでしょう。



開催の挨拶を述べる竹田潤  
同志会会長

総会開催にあたり  
同志会の竹田潤  
会長より挨拶があり、  
続いて農協を代表  
して西川寛稔営農  
生産委員長、来賓の  
方々を代表して根

室生産連の瀬野翼様よりご祝辞をいただきました。  
議事進行にあたり中春別地区の目黒雅明さんが  
議長に選出され、議案第1号から議案第5号まで全  
て可決承認されました。

また、今年度は役員改選が行われ、代表監事を退  
任する佐々木靖裕さんから退任の挨拶がありました。



退任挨拶をする佐々木靖裕さん

新役員体制は次の通りとなりました。

- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| 会 長   | 竹田 潤                      |
| 副 会 長 | 山田 晁嗣、久保 光大               |
| 理 事   | 浮川 優、牧野 修二、<br>畠山 吉男、高橋 学 |
| 代表監事  | 寺澤 佳吾                     |
| 監 事   | 宗像 卓朗                     |

総会終了後懇親会が行われ会員や関係機関の方々と親睦を深め盛会のうちに終了しました。

# 長命連産性や高成分、足・腰が強い 種雄牛をメインとして使用

11月22日から29日の日程により、グローバルジェネティクス株式会社主催によるイタリア・オランダ酪農視察研修が4人、当JAから畜産課・藤原誠職員が出席し視察研修が行われました。

イタリア種雄牛会社  
Intermizoo社

イタリアの初日には、Intermizoo社に行きイタリアの酪農情勢や種雄牛を勉強しました。イタリアの酪農家のほとんどは牛を外で飼うことなく中で管理するのが基本でした。搾った牛乳は70%がチーズに加工されます。乳価は1ℓ50円くらいと低く、酪農家が苦しく減少傾向にあるとの事でした。ただ、1戸あたりの頭数が増加しているため牛の数は増加していました。

イタリアでは、日本のホルスタイン登録協会の様な組織があり、70%以上登録されています。その方達は20人おり1年間(4月、8月、

## イタリア、オランダ 視察研修

畜産課 藤原 誠

海外



プリンス本牛と参加者一同

12月の3回体格審査のデータを取り、8月と12月に

は搾乳速度のデータを取得し、1頭につき1度だけデータを取るシステムとの事です。

人工授精は酪農家が行ない、性判別精液は10%〜15%利用している。使用している精液はイタリアの種雄牛プリンス、パーパス、ミルトーが多くなっています。

この会社では、全世界60カ国に精液を輸出している。現在の中春別農協選定種雄牛にある198H113のプリ



イタリア・ファスナ牧場

ンス本牛がいます。プリンスは能力が徐々に上がる大器晩成型であり、分娩を重ねるとどんどん良くなるタイプ。プリンスは海辺を好んでおり散歩を時々します。他にも無角牛や肉用兼用種の種雄牛もいて日本の検査に合格できたら是非使用してほしいと勧められました。

### イタリア・ファスナ牧場

ファスナ牧場は、26歳のファスナさんが3代目になり、両親と大学生の従業員2人で経営。飼養総頭数は27

0頭で130頭が搾乳牛であり、1頭あたりの平均乳量は1万1700kgのフリーストールです。搾乳施設はパラレルパーラです。

夏の間に分娩をしないよう授精に気をつけていて、牛の体高はだいたい150cmくらいあり、牛群の中にはEX91点や92点を獲得した牛もいました。

若牛は13カ月から授精し、親牛は分娩後80日〜120日で授精します。

プリンスは20頭くらい搾乳していますが分娩を重ねることに乳量が増え、足・腰が強く扱いやすい牛の1頭であるとのこと。他にパーパスやミルトー（両方イタリアの種雄牛）が牛群に多くいて、両方とも足・腰が強くおとなしい牛でした。ゲノミック精液や判別精液はあまり使用していません、理由としては信頼性にかけるからという話をされました。

### イタリア・スピナル牧場

スピナル牧場はスピナルさんが2代目になり、従業

員3人で経営。飼養総頭数は250頭で120頭が搾乳牛であり、1頭あたりの平均乳量は1万500kgのフリーストール。搾乳施設はパラレルパーラです。

イタリアの種雄牛は全体の50%で、残りはカナダの種雄牛とのことです。タンパクの数値が高い種雄牛を良



イタリア・スピナル牧場

く使う傾向があり、乳量よりも乳成分に重視していました。

この牛は人間を見るとスタンションから身を乗り出してくるくらい人のことが好きであり、性格は温厚でした。2カ月前に牛舎の

30%くらいが火事で燃えてしまい、火傷を負っている牛もいました。そのため工事中で牛舎内の手前しか見ることができませんでしたが、火事があったにも関わらず視察を許可してくれた経営者はとても温厚な方でした。子牛の施設を見ると日本ではあまりないハッチで狭く掃除するのに時間がかかりそうな印象を受けました。

### イタリア・ゴーフアーム

ゴーフアームではオーナー1人と従業員8人で経営。総飼養頭数は4000頭で2000頭が搾乳牛であり、1頭あたりの平均乳量は1万2800kgのフリーストールです。搾乳はドイツ人従業員3人で行ない、パラレルパーラ式の24台のミルカーでした。圧倒的な広さでEXクラスの牛も100頭近くおり、



イタリア・ゴーフアーム

イタリアの全牧場の中でも3本指に入る有名な牧場です。プリンス、パーパス、ミルトーの4産目、5産目がたくさんいましたが、どれも乳器・肢蹄・体格が良かったです。その中でもゴールドサンやゴールドドリム（どちらもイタリアの種雄牛）は共進会向きで、高さ・幅があり別飼（共進会タイプで点数の高い牛は綺麗な場所飼養）されており、日本でも使用して下さいと勧められました。

使用している精液も様々

でホルスタインのオスも200頭おり、海外の精液会社がおスを買っていく。受精卵も良く活用していて、採卵も年間20回くらいして年間100卵以上海外に販売していました。

ゴーフアームではバイオガスの施設がありました。搾乳施設やバイオガス、別飼いの場所などに監視カメラが設置しており、社長室で常に録画されておりセキュリティ管理がしっかりされています。

### イタリア・セルジヤ牧場

セルジヤ牧場はセルジヤさんが4代目になり、従業員2人で経営。総飼養頭数は170頭で80頭が搾乳牛で、1頭あたりの平均乳量は9500kgのフリーストールです。イタリアの種雄牛プリンス、パーパス、ミルトーが多くいて、温厚でおとなしい牛群のため「フリーストール内で見て良い」と言われました。確かにおとなしく牛が暴れたりせず、にゆつくり歩いていたので、近くで乳器、歩様を見てと



イタリア・セルジヤ牧場

でも勉強になりました。

受精卵を年に数回ほど活用しており、生まれた良い牛は特別に綺麗な場所で管理されていました。イタリアでは良い牛は特別扱いするのはごく当たり前とのことだそうです。

セルジヤ牧場の牛乳で作ったチーズを食べさせてもらい、高成分のチーズはコクがありとても美味しかったです。

**オランダ・プラネ牧場**

プラネ牧場はプラネさんが4代目になり、従業員3人で経営しています。総飼養頭数は230頭で100



オランダ・プラネ牧場

頭が搾乳牛であり、1頭あたりの平均乳量は1万1700kgのフリーストールです。オランダの種雄牛キャンパスを増頭し続けた結果、4年間で1頭あたりの平均乳量が9300kgから1万1700kgに増え、タンパク3.65%、脂肪4.00%になり搾りにはキャンパスが良いとのことでした。キャンパスは1頭1日平均44kg〜50kgの乳量が出ており、配合は1日に9kgあげているとのこと。

人工授精は畜主が行っており、分娩後40日から授精を開始して3回以内で受胎するように心掛けています。現在、使用している精液はオランダの種雄牛エマヌエルソン、ヒースがメインでした。

オランダでは、配分制度や耕作面積に対する飼養頭数制限があるため、無制限に牛乳を生産することができず、牛を健康的に管理して長生きさせて、生涯乳量を伸ばすことで利益を残す方法が主流であるとのことでした。また、酪農以外の副業に取り組むことや奥さんが別の職業で働くことがあります。収入を増やすためには必然ということでした。

今回のイタリア、オランダ酪農視察を実施しての感想ですが、両国ともに共通

して言えることは牛の性格が温厚でおとなしく、扱いやすいことや長命連産性や高成分、足・腰が強い種雄牛をメインとして使用していることでした。また、人工授精師がいなく農家の畜主が授精している状況に対してカルチャーショックを受けました。

イタリアについては、現在の中春別選定種雄牛のプリンス本牛に会えたことや、写真を一緒に撮られて貴重な経験をすることができました。ゴーフームについては、牛自体の強さが見ているだけで伝わってくるくらいに凄い牛群でした。日本でもイタリア種雄牛を使用して、共進会やフリーストールで活躍することができると実感しました。

オランダについては、牛をいかに長く生かして生涯乳量の必要性を重視している国だと思いました。また、糞尿施設の隣でアイスクリー



ム屋を経営していた光景が信じられませんでした。これが「文化の違い」ということを目で見て直接感じるものが出来てとても良い経験でした。

イタリア、オランダの視察研修を終えて、両国の酪農事情や乳牛改良の取り組み状況を勉強することができました。いかに自身の目で見ることが大切か知ることができました。今回、このような貴重な経験をさせて下さったことに感謝し今後の業務にいかしていきます。

# 敷料としてのおが粉

根室管内では、ふん尿のスラリー処理体系が多く、敷料にはおが粉が多く利用されています。

おが粉は扱いやすく、吸湿性も高い優れた敷料ですが、有機物であり、環境性乳房炎の原因菌にとって格好の栄養源にもなっています。

環境性乳房炎が増える原因の中には、この敷料のおが粉に含まれる大腸菌や連鎖球菌が関係していることも少なくありません。

普及センターでは、根室管内9戸の酪農家の協力を得て、昨年の8月から9月にかけて、敷料に含まれている大腸菌群を調査しました。

## おが粉の水分と細菌数

使用前のおが粉の水分が60%を越えると、大腸菌や大腸菌群が増加してきます(図1)。

## 牛床は前方も汚れている

敷料のおが粉を、牛床の前方と後方に分けて採取して菌数を調べた結果、前方と後方では細菌数に大きな

違いが確認されました(図2)。細菌数の多少は見た目では判断できません。

敷料は後方の汚れた部分を取り除くだけでなく、牛床全体の敷料を交換することも必要です。前方の敷料

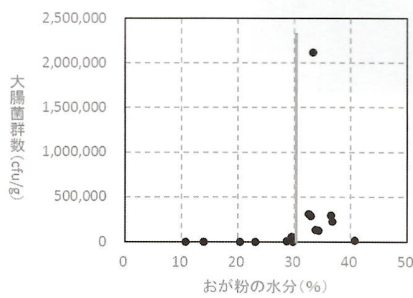


図1 おが粉の水分と大腸菌群数

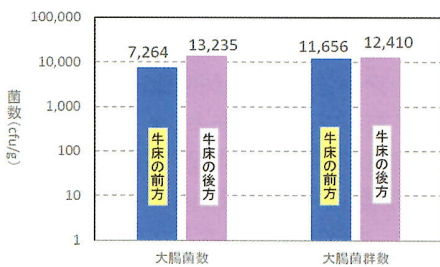


図2 牛床の前方と後方の細菌数 (フリーストール4戸、つなぎ1戸の平均)

を後方へ広げることが、牛床全体に菌を広げてしまうこととなります。

## 消石灰の混合による殺菌効果

敷料のおが粉を殺菌するには、消石灰を重量比で3~5%程度添加することが勧められています。今回の調査でも、消石灰を重量比で3%混合することで、強アルカリ性による殺菌効果を確認できました(図3)。

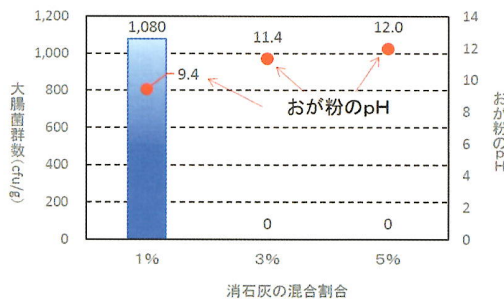


図3 消石灰の混合割合と大腸菌群数の推移

しかし、消石灰は時間の経過とともに、空気中の二酸化炭素と結合して炭酸カルシウムになり、殺菌効果はなくなってしまう。消石灰を混合した敷料は定期的に追加・交換することが必要です。

乳頭や乳房に直接触れる敷料の

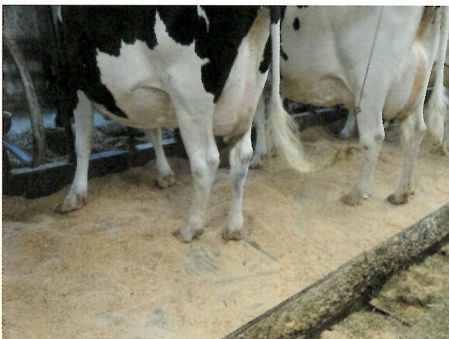
中の細菌数を、できる限り少なくしておくことが、環境性乳房炎予防にとって重要なポイントになります。敷料と牛床の管理を今一度、見直してみよう。

### \*おが粉に混合する消石灰の量のめやす\*

- ・調査したおが粉の容積重  
おが粉1㎡で約230kg(210~270kg)
- ・消石灰混合割合(重量比3~5%) 7~12kg



・おが粉1㎡に対して、消石灰10kg程度を混合



いました。

実習中の主な仕事は搾乳、搾乳舎の洗浄、人工授精のサポート、子牛の給餌で、日中は生まれた子牛のピックアップ、除草剤散布、農場内の片づけ・清掃などでした。子牛が成長してくるとグループごとにパドックへ移動させる作業も行いました。午後の仕事は大体6時前には終了し、その後は夕食、自由時間となりました。

生活していて、NZの風景はどことなく北海道に似ているなど感じました。しかし道が広く、草地も勾配が急なところが多かった印象を受けました。森林にはブナなどの大きな樹木の他に、シダ類・コケ類が密集し、大自然のパワーに満ちあふれていました。



ナショナルパークにて

## 研修を終えて

今回の実習を通して、まずNZの酪農のスケールの大きさに圧倒されました。「百聞は一見に如かず」といいますが、実際に自分の目で見て1つ1つの光景に驚かされました。

実習中、仕事や生活に慣れるにつれ、規模も経営体系も違うNZの酪農に触れて改めて酪農の奥深さ、おもしろさを感じました。NZ酪農はNZならではの土地、気候、歴史があるからこそできているのであって日本ではまねできるものではありませんが、その国の土地、気候に適したやり方があるのだと思いました。また放牧のノウハウや草地の管理、こだわり話や、パドックのローテーション、牧草の生育などの話は参考になり、とても興味深かったです。ただ、英語で伝えることが難しく、また相手が話していることを理解することも難しく、英語をもっと勉強しておけばよかったと思いました。

このNZ研修を通して、酪農の奥深さを知ることができ、また海外生活を通して、多国籍の人と出会って共に過ごしたことから人間的にも成長することができたと思います。



実習最終日、農場のみなさんと

最後に、今回お世話になった農場の方々、現地エージェントの杉本さん、別海町、別海高校農業特別専攻科、両親、そして研修にご支援ご協力いただいた皆様にこの場を借りて心からお礼を申し上げます。

報告者：農業特別専攻科2年

青野大地 片野登紀子 島崎和成

## ●【経営科】東北海道実績発表大会当番校

1月21日(木)に、東北海道学校農業クラブ連盟実績発表大会は本校が当番校となって開催されました。大会は、当初1月20日と21日の2日間開催の予定でしたが、参加校の移動日に当たる19日が暴風雪に見舞われたため、急遽1日開催と大幅な予定変更を余儀なくされました。大会当日は十勝、釧路、オホーツクから9校10クラブ189人が参加し分野Ⅰ類からⅢ類までのプロジェクト発表と、クラブ活動発表の全46発表がこの1年間の研究や活動の成果を競いました。本校は酪農経営科43人で4つの発表会場を運営し、更に4発表を行うなど生徒は活躍を見せてくれました。発表に参加した4つのグループは惜しくも全道大会出場を逃したものの、運営態度は高く評価されておりました。今年度も卒業が近づ

## ●【経営科】現在の進路状況

いてきました。3年生の進路は、12人全員が合格もしくは内定を得る事ができました。今年の卒業生では、北海道立農業大学校、北海道農業協同組合学校(JAカレッジ)にも合格するなど、奮闘が目立ちました。また、就職、進学を経た最終的な就農者は1人の予定です。

今年度の就職は求人数が比較的堅調であったこともあり、どの生徒も目標通りの就職を叶えることができました。機械整備や食品関連業など幅広くなっており、今年も含めると酪農経営科の卒業生の就職内定率は7期連続で100%となります。ご支援いただきました関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。なお、詳細は、次のとおりです(1月19日現在)。

### 【進学】

北海道農業協同組合学校(JAカレッジ)、北海道立農業大学校、ホンダテクニカルカレッジ関東、北海道千歳リハビリテーション学院、光塩学園調理製菓専門学校、札幌国際大学短期大学

### 【就職】

明治大和倉庫、北海道エネルギー、どんぐり、ヤマレンホンダ販売



# 北海道別海高等学校 酪農経営科・専攻科だより

## ●【専攻科】ニュージーランド研修から帰国しました。

平成27年9月25日～11月30日までの67日間、農業特別専攻科学生3人がニュージーランド(NZ)研修に参加しました。以下はその報告です。

今回の研修では、まずオークランドで1週間ホームステイをしながら語学学校に通い、英語の勉強をしました。ホームステイ先は3人とも別々でした。ホームステイを終えたのち、オークランドから北島の中部にあるパーマストンノースに行き、そこから車で2時間ほどかけて実習先の農場があるオハクネという町に行きました。オハクネは山の近くにあり、標高が800～1000mあります。



語学学校のクラスメイトたちと



オハクネ近郊

今回お世話になった農場は草地在400haほどで放牧地兼一部採草地として使われており、100以上のパドックに分けられています。搾乳牛約690頭、育成牛約200頭を飼養しており、NZでは中規模程度の規模になります。農場を仕切っているのはリサさんという女性の方で、従業員はリサさんの息子さん、他にもドイツ人の女性、メキシコ人の男性、ニュージーランド人の兄弟2人が働いていました。

牛はフリージアン種(ホルスタイン種)が大部分を占めており、あとはジャージー種、キイーウィークロスを飼養していました。

飼養形態としては常時放牧を行っており、私たちが行った時期には放牧地にカルシウム、マグネシウムなどのミネラルを添加したサイレージ



牛を横断させているところ

やロール、PKEといったサプリメントも給与していました。

牛群は経産牛、初産牛、足の悪い牛や乳房炎に罹患した牛に分けられていました。経産牛と乳房炎罹患牛は朝晩の2回搾乳で、初産牛と足の悪い牛は朝のみの搾乳でした。



哺乳の様子

乳房炎罹患牛は非常に少なく、搾乳牛690頭中に抗生物質による治療牛は5頭程度でした。

子牛は生後1週間くらいの間、簡易の育成舎で飼養し、その後子牛用のパドックに放し、哺乳とパルプ(ペレット状)飼料を与えていました。生後3カ月ぐらいで預託し、種付け後に自分の農場へ戻ってきます。NZの牛は日本の牛よりもかなり小さく、成牛でも日本の育成牛ほどの大きさでした。



ニュージーランドの成牛

1頭あたりの平均乳量は15kgほどでした。NZでは乳価は乳固形分(牛乳から水分を引いたもの)の割合で決まっていた。乳脂肪は平均4.5%、乳タンパクは平均3.7%程度で、体細胞数は約18～19万でした。



搾乳作業

搾乳施設は片側44頭を収容出来、ヘリンボーン式のシングパーラーでした。11月1日から、授精が始まり、毎朝の搾乳中に発情の発見をし、搾乳後に人工授精師による人工授精が行われて



尻尾の毛を切りそろえる仕事

# 世代を超え 音楽を通じての交流



きりっと冷え込む冬晴れのした旧豊原小学校体育館で12月20日(日)豊原音楽祭が開催されました。



ハンドベルでキラキラ星を奏でる保育園児たち。上手にできたかな



小中高生は澄んだリコーダーの音色を聴かせてくれました



中学生バンドも大人たちに負けてません！

が数名で集まり、スタートした豊原音楽祭が今年で7回目を迎えました。1年目は10組程で始まり年々増え続け、過去最多の21組が出演し、保育園児から小中高生、地域の酪農家、学校の先生、飼料会社の社員、JA職員らなど豊原に縁のある方が幅広く参加しました。

楽器の種類も幅広く、保育園児たちのハンドベルやピアノ、バンド編成のギター・ベース・ドラム、サクソ・トランペットの管弦楽器の他、ピアノにリコーダーが演奏されました。

まず、かわいい保育園児たちのハンドベル「きらきら星」で幕が上がると、ビデオカメラやスマートフォンを

ピアノ演奏では、演奏前に手拍子のリズムをレクチャーしてもらい、曲が始まるとリズムに合わせて会場全体から手拍子で演奏を後押しし本日の一番の盛り上がりとなりました。

縮めの和太鼓演奏は、豊原地区の若者で構成されたチーム響きによる「響青乱太鼓」が力強く体育館全体に響き渡り、豊原音楽祭が幕を降ろしました。

手にしたお父さんお母さん達は、我が子の晴れ姿をおさめようと会場の前のほうにいつばい集まり撮影していました。

小中高生が演奏するリコーダーは近々、コンクール発表会が控えている事もあり表現豊かで練習を積み重ねているとわかりました。

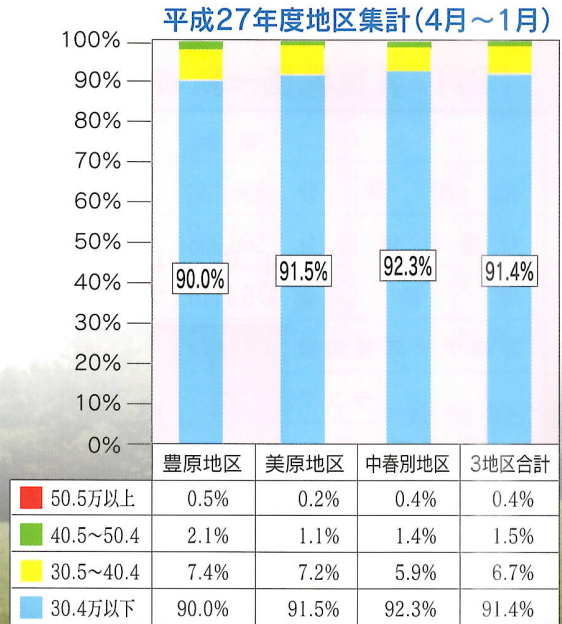
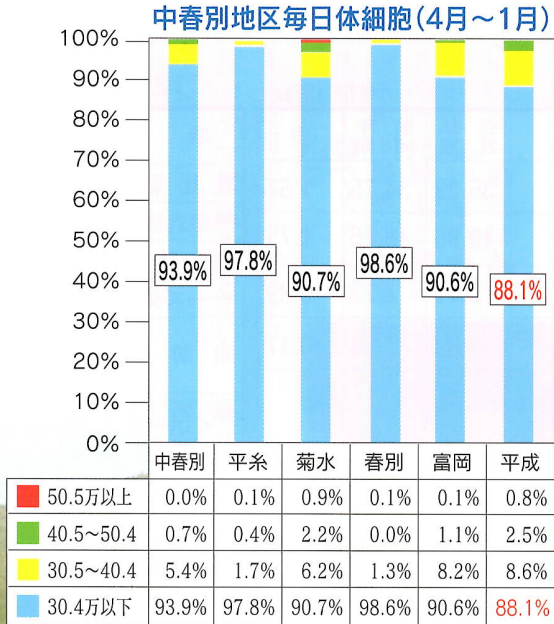
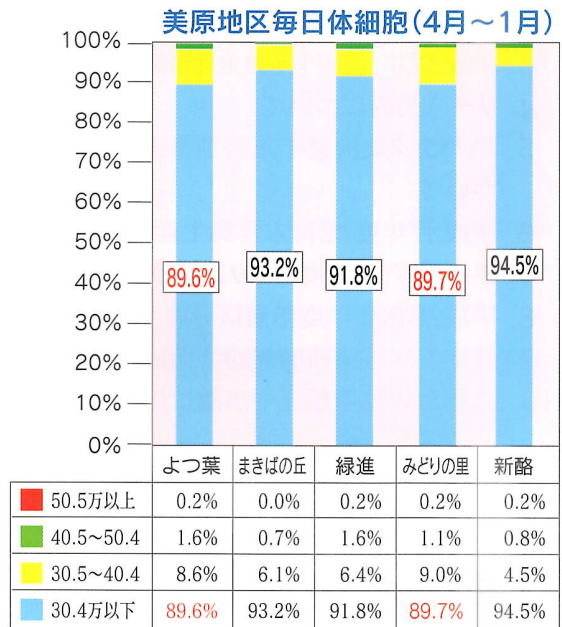
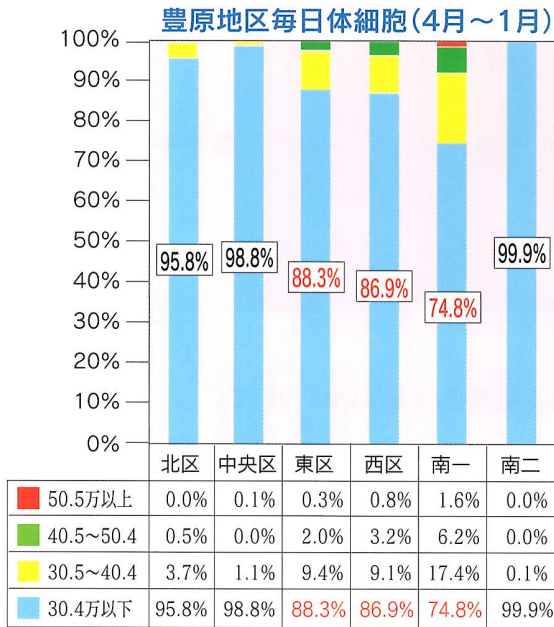
バンド演奏では中学生の女子グループや謎のオオカミ覆面バンド・小学校の校長先生のギターソロ演奏があり、迫力のある音に圧倒されたかイス席の前に敷かれた体操マットに座って聴いていた保育園児たちがはしゃぎ回っていたのが印象的でした。



生乳汚染事故を無くそう！

- 抗生物質混入事故……………JA中春別発生件数 **2**件 管内合計では**8**件です。
- 生菌による汚染事故……………JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。
- 異物混入(小動物)、加水、血乳による汚染事故… JA中春別発生件数 0件 管内合計では**2**件です。
- 異臭、異常風味による汚染事故……………JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。

食品貯蔵施設である生乳処理室を整理整頓して  
衛生的に保ちましょう。  
きれいな生産現場から安全安心  
そして、良質な生乳出荷に努めましょう



# 第11回 理事会の動き

平成28年1月25日(月)

## 議案

1. 平成27年度自己査定に係る債務者区分判定方法について
2. 平成28営農年度クミカン取引計画に係る貸越極度額及び供給限度額の認定について
3. 平成28営農年度財産造成に伴う資金の貸付について
4. 平成28営農年度特定指導組合員及び月別限度管理組合員(案)について

## 報告事項

1. 平成27年度12月末財務状況について
2. 平成27年度12月末購買事業実績について
3. 平成27年度飼料奨励金(農協利用奨励・大口取引奨励)の支出について
4. リース契約について
5. JAバンク北海道年末特別推進運動「みんなでおいしい北海道ドローン貯 冬のキャンペーン」の実績について
6. 平成27年度12月末営農生産関連実績について
7. 平成27営農年度クミカン精算状況について
8. 平成28営農年度階層区分について
9. 特定疾病感染補償互助会助成について
10. 共和育成牧場預託牛事故に係る互助会規程による見舞金の支払いについて

## 12月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

			単 価	算 出 基 礎	支 払 価	前 年 期	差
乳 脂 肪 分			896.136		36.32	34.75	1.57
無 脂 乳 固 形 分			566.908		49.95	48.16	1.79
補 給 金			5.1110		5.11	4.72	0.39
計 画 チ ー ズ 奨 励 金			1.6810		1.68	1.85	-0.17
乳 質 単 価	生 菌 数	ランク1	2	311,663,644.5kg	3.77	3.75	0.02
		ランク2	0	5,955,606.2kg			
		ランク3	-3	97,683.1kg			
	体細胞数	ランク1	2	280,781,964.8kg			
		ランク2	1	19,919,162.3kg			
		ランク3	-2	2,691,256.4kg			
合 計					96.83	93.23	3.60

## 12月分乳代支払単価

項 目	単価(円)/(kg)%	
乳 脂 肪 分 ①	36円32銭	
無 脂 乳 固 形 分 ②	49円95銭	
補 給 金 ③	5円11銭	
チ ー ズ 奨 励 金 ④	1円68銭	
脂 肪 率	全道	4.05%
	農協	4.14%
無 脂 固 形 分 率	全道	8.81%
	農協	8.77%
成 分 乳 価	全道	93円06銭
①+②+③+④=⑤	農協	90円25銭
乳 質 乳 価 ⑥	全道	3円70銭
	農協	3円73銭
乳 代 合 計	全道	96円76銭
	農協	95円63銭
⑤+⑥	差異	-1円13銭

## スポーツで爽やかな汗を流し、各農協と親睦を深める



### 第5回近隣JA新陸ソフトバレーボール大会

第5回近隣JA親睦ソフトバレーボール大会が、12月20日(日)中標津町交流センター(計根別)で開催されました。

当日は約60人が集まり各農協ごとに男女混合で11チームが参加し、2つのリーグに分かれ総当たり戦で試合が行われました。

当JAは順調に勝ち進み、決勝戦はJA中標津と対戦し、なんと2-0で優勝しました。

スポーツで爽やかな汗を流し、職員同志の新陸を深めました。

## 組合だより創刊号から最新まで整理され保管

豊原地区 松井繁男さん

「家に組合だより創刊号から今までの全部あるよ」と云われ「エッ、本当ですか?」と広報担当者としてはびっくりするやら嬉しいやら。「見において」と快い返事にお邪魔したのが豊原地区の松井繁男さんのお宅。

自宅前のログハウスに案内され、そこには創刊号(昭和47年)から最新号までがファイルに綴られ、ずらりと整理されていました。

初期の頃に綴られた組合だよりを見て、「この時は今よりもサイズが小さくてさ~(B5版)、印刷の技術もかなり進歩して白黒からカラーになって、こんな時代もあったよね」などと懐かしさに浸りながら一緒に拝見させていただきました。

ログハウスに案内され、創刊号から最新号まできれいに整理された「組合だよりなかしゅんべつ」



ボランティア組織そよかぜでは、月1回・第2水曜日に中春別農業者団地センターの一階和室で、10時30分~14時頃まで「そよかぜサロン」を開いています。脳トレゲームやお茶を飲んでみんなで話したりしませんか? どなたでも参加できます。

また、そよかぜでは一緒に活動する仲間も募集しています! 活動内容は介護施設へのウエス(古布)寄付、お誕生日のはがき作成などの活動を行っております。去年は10月にグループホーム「すずらん」へ訪問ボランティア活動、特別養護老人ホーム「清翠園」へウエス寄付を行いたくさんの笑顔に出会うことができました。そよかぜでは「自分たちのできることから」ひとつひとつボランティア活動を行っております。活動に興味のある方はお気軽に営農振興課(☎76-2241)までご連絡下さい!

ボランティア組織「そよかぜサロン」に遊びに来ませんか?

### 人事異動

★退職者 高市 芳光  
(総務部金融共済課長 勤続35年7カ月)  
発令日 平成28年1月31日付

★職員の人事異動  
大内 毅 総務部金融課金融共済課長  
小田島聖子 総務部管理課管理係  
笹木 悠佑 総務部金融共済課共済係  
発令日 平成28年2月1日

## 写友北風プロジェクト

ご紹介するサークルは、写友北風(しやゆうきたかぜ)です。会が設立されたのは昭和40年代に豊原地区の南澤三郎さんから標津町、中標津町、別海町の写真愛好家が20人ほど集まり発足しました。

メンバーは写真を撮りためては、写真二科展などに応募し、78年(昭和53年)には富士フィルム写真コンテストで団体として東京で展示会を行いました。

現在も標津町、中標津町、別海町に会員はいるものの別海町内は豊原の南澤三郎さん、松井繁男さん、美原の兼松幸裕さん3人ですが、毎年、標津町公民館、別海町中央公民館、別海町野付半島ネイチャーセンターや中標津空港にて写真展を開催し、30点ほどの作品を展示しています。今年も3月に標津町公民館、5月は別海町野付半島ネイチャーセンターで写真展を行うことが決まっていますので、足を運んでみてはいかがでしょうか。なお、当JA金融課の待合室にも3人の作品を展示しておりますので、ぜひご覧になってください。展示作品は随時取りかえていきます。

## 組合員の広場



雪原に反射する夕日、わずか30分ほどのシャッターチャンス 彩の雪原・高丘 by南澤三郎

今月号より組合員さんの撮った写真、ちぎり絵、習字、陶芸などをの作品を掲載していきます。皆さんの力作を募集中！  
営農振興係までご連絡ください。